

第1学年 国語科の実践

1 単元名 おもいうかべながらよう「くじらぐも」(全9時間 5時間目)

2 単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえることができる。
- かぎの使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 積極的に想像力を広げて楽しみながら物語を読むことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて…子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話す指導について〉

4月に、話を聴く「ききてめいじん」と自分がみんなに話す「はなしてめいじん」になるときに気をつけることを考えた。この2つの名人に加えて、日常の中で友達の話をよく聞いて反応している児童がいたときには、「はんのうめいじん」として反応の仕方を教室に掲示している。

「聴く」とときには、特に「ききてめいじん」を意識して、相手を見ながら聴くことを繰り返し指導している。さらに「はんのうめいじん」として、友達の言葉を聞いて自分なりに反応すると良いことを伝えている。挙手する際に「他にあります。」「似ている。」などの言葉を使って友達の考えに対する自分の考えを述べるできるようになった児童が少しずつ増えてきた。「名人」の型を教室に掲示したり、よい反応を取り上げて日々追加したりしていくことで、様々な考えについて一人一人が考えをもつことができるようにしていきたい。

「話す」については、全体に自分の考えを伝える際、まだ前の黒板や担任の方を向いて話す姿が多く見られる。その都度みんなの方を向くよう繰り返し指導しているところである。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

自分の考えをもって話し合いができるように、個人で考える時間、近くの人と話し合う時間を取り入れるようにしている。ペアでの話し合いに少しずつ慣れてきて、すぐに話そうとする児童が増えてきた。相手の話に質問をしたりあいづちをうったりしながら聴けるように指導してきた。全体での話し合いでは、友達の話につけたしをして一人の考えをより詳しくしていったり、出てきた友達の考えと考えとを比べたりしている。出てきた考えに対して自分の考えが誰のものと同じか手を挙げて示す時間をとると、周りを見て「この考えが多い。」など児童なりにみんなの意見について考えをめぐらせる場面

が見られる。

国語の「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」などの音読劇では、劇で必要なものは何かを進んで考え、休み時間に準備をする姿が見られた。準備したものをみんなに見せて、他のグループがまねをしたりさらに新しい小道具ができたりもした。練習中は、どうしたらその役に見えるかを考えてグループで相談しながら取り組む姿が見られた。学習中に考えたつけたしの台詞を劇の中に取り入れたグループを見ると、「本物みたい。」と褒める児童がいた。友達の良さを素直に認め、自分たちにも生かしていけるようにしていきたい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領のC（1）エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」を目標としている。場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について、何をしたのか、なぜしたのかななどを具体的に思い描きながら、その世界を豊かに想像することを示している。

本教材は、1年生の子どもたちが体育の時間にくじらぐもに会い、空の冒険をする物語である。児童にとって、自分たちと同じ1年生が大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら楽しんで読むことができるだろう。物語の中の台詞が少ない分、場面の様子から「自分だったらこんなことを言う。」「くじらぐもに乗ってこんなところにも行きたい。」など想像をふくらませて読むことができると考える。思い描いた互いの考えを伝え合い、より物語の世界に浸れるようにしていきたい。

〈指導について〉

今まで、「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」の物語で登場人物を確かめながら動作化を取り入れ、劇を行ってきた。役になりきるために、文には出ていない登場人物の言葉を考えたり、動物の動きや大きさなどを考えたりして、楽しみながら劇に取り入れる様子が見られた。「やくそく」の物語では、児童の初発の感想から「なぜあおむしたちは喧嘩したのだろう。」という疑問が出てきて、読み進めながら、クラスで考えて話し合いを行った。それまで読み取ってきた内容から考えて「～なんじゃない？」や「～だからだよ。」というように、根拠をもって話し合う姿が見られた。

本教材は、児童にとって身近な題材であることやこれまでの経験から、自然と「劇をしたい。」という思いが芽生えるだろう。そこで、以前の「おおきなかぶ」の学習を思い出しながら、より登場人物になりきるために、自分だったらなんと言うかを考えられるようにしていきたい。物語の設定や場面の様子を押さえながら、児童が考えたことを話し合い、物語を読んだり演じたりする楽しさを味わえるようにしたい。

本時では、3場面の「子どもたちがくじらぐもに乗って空を旅する様子」を読み、劇をしたり話し合いをしたりする。児童は、「空の上だとどんな話をするかな。何が見えるかな。」ということを考えるだろう。そこで、空の旅をしているときの会話や台詞をみんなで共有するときに、**自分の考えを素直に伝え、友達の考えに反応しながら聴く姿**をひびき合いの姿としたい。

5 単元構想 第1学年国語科 おもいうかべながらよもう「くじらぐも」全9時間

単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえることができる。
- かぎの使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
- 積極的に想像力を広げて楽しみながら物語を読むことができる。

「くじらぐも」ってどんなお話だろう①②

どんな形の雲を見たことがある？

- ・ソフトクリーム ・車 ・うさぎ
- ・飛行機 ・鳥

- ・くじらの雲が出てきた。
- ・くじらに乗って空を飛ぶ話。
- ・空なのにくじらだった。
- ・空が青いからだよ。
- ・なんで乗れたんだろう。
- ・みんなで手をつないでみれば。
- ・乗ってみたい。
- ・1年2組いいなあ。
- ・遠足みたい。
- ・乗るまねならできるよ。
- ・おおきなかぶみたいに劇ができる。
- ・やってみよう。

げきをするためにはなにをすればいいかな②

- ・くじらぐもが必要。
- ・ちょっと読んでみたい。
- ・たくさん練習する。
- ・くじらぐもの役とかに分かれる。
- ・動かないと劇じゃない。
- ・他にも何か言ってると思う。
- ・つけたしを考える。

「おおきなかぶ」の劇を思い出させながら、書かれていないことを考えて付け足す良さに気付かせるようにする。

【態】想像を広げながら楽しんで読もうとしている。(ワークシート・発言)

なんていっているかかんがえよう③④⑤⑥

からだをうごかしながらよんでみよう③④⑥

たいそうしながら

なんていっているかな？

体操をする子どもたち③

- ・体操楽しいな。
- ・空にくじらがいる！ ・やっほお。
- ・くじらさん、遊ぼうよ。
- ・体操を教えてあげる。

まいあがるとき、なんていっているかな？

くじらぐもに乗ろうとする子どもたち④

- ・まだまだだ。
- ・がんばろう。
- ・あと少し。
- ・もう一回やってみよう。
- ・乗れた。やったあ。すごい高い。

くじらと別れる子どもたち⑥

- ・くじらさん、ありがとう。
- ・悲しくてまだ帰りたくないな。
- ・また来てね！
- ・今度は違うところに連れて行ってね。

どこで・何をしているのか場面を確かめる。

【知】語や文のまとまりに注意して音読している。(音読・練習)

おんどくげきをしよう

くじらぐもにのったらなんていうかな？⑤(本時)

- ・あそこにわたしの家がある。
- ・雲の上はふかふかだ。
- ・遠くまで来たなあ。あつ、海だ！
- ・いるかがいるよ。
- ・東京タワーだ。

【思】場面の様子や登場人物の行動から想像をふくらませている。(ワークシート・発言)

グループに分かれて練習しよう⑦⑧

- ・くじらの役やりたい。
- ・もっとジャンプしなきゃ。
- ・大きい声で！
- ・くじらは上から言った方がいいよ。

よい動きをしているグループを紹介する。

【態】読んで想像したことを劇で表現しようとしてたり友達と伝え合おうとしてたりしている。(練習・発表)

音読発表会をしよう⑨

- ・〇〇さんのくじらが上から大きな声で言っていて、本当にくじらぐもが言ってるみたいだった。
- ・「天までとどけ」のところが息がそろった。

6. 本時について

本時目標 くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、自分が考えた会話を付け加えることができる。

学習活動	主な支援・留意点
うみのほうへ イルカがいる。 ふねもみえるよ。 むらのほうへ もりがたくさん。 くまがいるよ。 まちのほうへ じぶんのいえがある。 おかあさんだ。やつほう。 とうきようタワーがある。 たかいなあ。かぜがきもちいい。 どこまでいくんだろう。 みんな小さくみえるな。 おちないようにしないと。 くじらぐもにのつたら なんていうかな とおくまでいくぞ。	・前の場面の確認をする。 ・個人で音読後、クラス全体でくじらぐもに乗ったときの様子を確認する。 ・必要があれば、教師が同じことや似ていることを書いた人はいるか問い返し、友達の考えと比べながら聴くことができるようにする。 ・考えた会話を入れながら音読練習をする。 ◆くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、会話を考えることができる。【思考・判断・表現】

7 実践を終えて

〈单元について〉

本单元は、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することを目標としている。子どもたちの「劇がしたい。」という思いから、物語の様子を登場人物の行動を体を使って表しながら想像していった。その際に、「おおきなかぶ」で行った、「登場人物が言っていることを想像し、物語に入れて劇に生かす」という取り組みは、児童にとって「くじらぐも」をより身近な物語として捉えることができた。毎回場面ごとに、【音読→ミニ劇場（代表者が動作化）→場面で登場人物が言っていることを想像する→グループごとに練習】という流れで行うようにし、次に何をするかが明確になるようにした。单元を通して、物語に浸りながら台詞を考えたり劇の練習をしたりする様子が見られた。

〈子どもの解決したい問題となったかについて〉

「劇をする」というゴールに向かって、本時は、くじらぐもに乗ったら（子どもたちやくじらぐもは）なんと言うか前時で考えたことを伝え合った。劇の中で考えたことを取り入れるために、海や村、街に行ったら…と子どもたちなりに自分だったら何と言うかを考える姿が見られた。友達の考えにも、「〇〇さんに似ていて」や「ああ～、すごくいい。」と自分の言葉で反応を示していた。何のために話し合うのかを理解しているため、積極的に考えようとしていた。子どもの解決したい問題となったと考える。

〈成果と課題〉

【成果】

- ・本時では、「空から見ると小さく見える。下から見ると大きいのに。」「ぼくたちの家も見えるかな。にぎやかだね。」というように、本当に空の雲に乗ったような視点で話す児童もいた。劇をしていても、上から街を見下ろすようにして表現している児童もいた。役割演技により、児童が物語に入り込む姿が見られた。
- ・大きくくじらぐもの模型や役割を示す首から下げる札は、児童のやる気を高めたり、劇をする上で混乱しないようにするための手立てとなった。
- ・毎回場面ごとに同じ流れで取り組んだため、児童が見通しをもって活動できた。最初に单元を通しての目標や流れを全員で確認したことも見通しをもてたことの一つであると考ええる。
- ・挿絵と吹き出しを使ったワークシートは、登場人物の身になって考えやすい手立てとなった。中には吹き出しだけではたりず、挿絵に吹き出しを付け足して書き込む児童もいた。書き溜めたものを重ねて台本のようにすることで、練習にも役立てることができた。

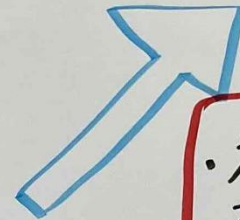
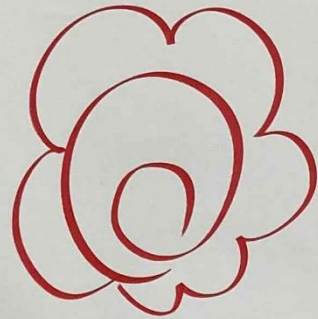
【課題】

- ・本時では、村と街の違いについてよく話し合う姿が見られたが、さらに考えの根拠となる挿絵や本文に戻って考えられるとよかった。特に、挿絵は子どもたちのイメージを共有できる手立てとなる。テレビなどに示しておく、振り返りやすい。
- ・劇の練習をするとき、考えた台詞をどこで言えばよいか戸惑っているグループがあった。みんなで台詞を言う場所を決めておくと、練習に取り組みやすくなる。

10/24

「くじらぐも」 国語科

本文や言葉、さし絵をもとに
しながら話し合いをする姿



本文やさし絵についてもどる。
→ 考えの根拠となるもの

話し合いが深まる

考えた会話を入れながら音読
→ どの場面で会話を入れるのか
決めておく

・教師の願い(むらまちのちがひ)
・子どもたちがちがひを話し合っていた
・子どもたちが見通しをもって
活動できていた。

・発表しやすい雰囲気(友だちの
発言をまつ)
・首かけの役割分担カード
・物語にひたっていた
(くもに乗ると、小さくみえる など)

くじらぐもにのったら
何て言うかな。

ひびき合い